

〔注〕 第一章

- (1) 天野郁夫『高等教育の日本的構造』(玉川大学出版部、一九八六年)二五～二七頁。
- (2) 『法令全書』(内閣官報局、一八七九年)七五頁。
- (3) 江島尚俊「なぜ大学で宗教が学べるのか―明治期の教育政策と宗教系専門学校誕生の過程から―」(『宗教研究』第八八巻第三輯、日本宗教学会、二〇一四年一月)五四～五五頁。
- (4) 前掲『高等教育の日本的構造』三二頁、前掲「なぜ大学で宗教が学べるのか」五七～五八頁。
- (5) 前掲「なぜ大学で宗教が学べるのか」五八～五九頁。
- (6) 前掲『高等教育の日本的構造』三二～三三頁。
- (7) 前掲「なぜ大学で宗教が学べるのか」六七～六八頁。
- (8) 同右、六二～六四頁。
- (9) 『明治三十六年第七回高等教育会議議事速記録』(文部大臣官房、一九〇三年)六頁。
- (10) 同右、六六～六七頁。
- (11) 同右、三一〇頁。
- (12) 同右、三二二頁。
- (13) 同右、一七五、三二〇頁。
- (14) 「専門学校令ヲ定ム」(JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. A1511347800)「公文類聚・第二十七編・明治三十六年・第十四巻・学事・学制・図書・雑載、産業・農事・商事・鉱山」国立公文書館所蔵。
- (15) 同右。
- (16) 教育史編纂会『明治以降教育制度発達史』第四巻(教育資料調査会、一九三八年)三四九～三五四頁。
- (17) 同右、三五四頁。
- (18) 同右、三五七～三五八頁。
- (19) 同右、三五六頁。
- (20) 同右、三五八頁。
- (21) 同右、三五九頁。
- (22) 天野郁夫『近代日本高等教育研究』(玉川大学出版部、一九八九年)二二二頁。
- (23) 江島尚俊「近代日本の高等教育における教育と教化」(江島尚俊、三浦周、松野智章編『シリーズ大学と宗教Ⅰ 近代日本の大学と宗教』法蔵館、二〇一四年)二二頁。
- (24) *SJL*, September 1906, pp. 749-750 (立教学院史資料センター編『THE SPIRIT OF MISSIONS 立教関係記事集成(抄訳付)』(第三巻、立教学院、二〇一一年)一一〇頁。
- (25) 「園の昨今」(『築地の園』第四九号、一九〇三年四月)一五頁。
- (26) 「園の昨今」(『築地の園』第九〇号、一九〇七年一月)一九頁。
- (27) 一九〇七年二月一日、紀元節と立教学院寄宿舎記念祭が新講堂において開かれていた(『園の昨今』『築地の園』第九二号、一九〇七年三月、一八～一九頁)。
- (28) 「園の昨今」(『築地の園』第九三号、一九〇七年四月)一八頁。
- (29) 「園の昨今」(『築地の園』第九五号、一九〇七年六月)一五～一六頁。
- (30) 「私立立教学院立教大学設立認可願」(「第一種 文書類纂(明治四十年)・学事・第七類・私立学校・第三巻」(「第二部学務課・内務部学務課」東京都公文書館所蔵)。

- (31) 「園の昨今」〔築地の園〕第九七号、一九〇七年一〇月 一八頁。
 (32) 「園の昨今」〔築地の園〕第一〇〇号、一九〇八年一月 四一頁。
 (33) 「園の昨今」〔築地の園〕第一〇一号、一九〇八年二月 二〇頁。
 (34) 「設立の趣意」(私立立教学院立教大学『立教学院立教大学要覧』一九一七年三月、立教学院史資料センター所蔵) 三～四頁。
 (35) 「私立立教学院立教大学学則」〔第一種 文書類纂(明治四十一年)・学事・第七類・私立学校・第二卷〕(内務部学務課)〔東京都公文書館所蔵〕。
 (36) 「園の昨今」〔築地の園〕第一〇二号、一九〇八年三月 一七頁。
 (37) 前掲「私立立教学院立教大学学則」。
 (38) 前掲「園の昨今」〔築地の園〕第九七号 一八頁。
 (39) 同右。
 (40) 「第四号 教員ノ氏名資格担任学科及専任兼任区別」(前掲「第一種 文書類纂(明治四十一年)・学事・第七類・私立学校・第二卷」)。
 (41) 「進達願」(前掲「第一種 文書類纂(明治四十一年)・学事・第七類・私立学校・第二卷」)。
 (42) 前掲『立教学院立教大学要覧』四八頁。
 (43) 『日本帝国文部省年報第四十四年報 自大正五年四月至大正六年三月』下卷(文部大臣官房文書課、一九一八年)。
 (44) 「私立立教大学定員増加認可申請書」(大正七年 東京府 私立学校 冊の四九) 東京都公文書館所蔵。
 (45) 「私立立教学院立教大学学則」(前掲「第一種 文書類纂(明治四十一年)・学事・第七類・私立学校・第三卷」)。立教学院百二十五
 年史編纂委員会編『立教学院百二十五年史』資料編第三卷、立教学院、一九九九年、三〇～三四頁所収。
 (46) 同右。
 (47) 前掲「園の昨今」〔築地の園〕第九七号 一八頁。
 (48) 「校報 学院の現況 一、大学部」(『立教学院学報』第三号、一九〇八年二月) 一一頁。
 (49) SM, November 1907, p. 908.
 (50) 前掲「私立立教学院立教大学学則」〔第一種 文書類纂(明治四十一年)・学事・第七類・私立学校・第三卷〕。
 (51) 同右。
 (52) SM, November 1907, p. 908.
 (53) 前島潔『立教学院宗教運動の過去及現在』聖公会出版、一九三三年 六一頁。
 (54) SM, November 1907, p. 907『立教学院学報』第二号掲載の一九〇八年三月一五日調「立教大学現在生徒府県別員数表」によれば、予科生二九名、選科生九名の計三八名である(『立教学院学報』第二号、一九〇八年四月)。一方、『日本帝国文部省年報』には、予科生二七名、選科生八名となる(海老沢有道編『立教学院百年史』立教学院、一九七四年、二七八頁参照)。
 (55) 前掲「私立立教学院立教大学学則」〔第一種 文書類纂(明治四十一年)・学事・第七類・私立学校・第三卷〕。
 (56) 「岡倉由三郎氏は大学部に今秋より新たに教鞭を取らる、こ
 と、なれり」(前掲「築地の園」第九七号、二〇頁)。岡倉は一九二五年に東京高等師範学校を退職し、立教大学専任となる(杉木喬編「岡倉由三郎先生略歴」『英米文学』第九号、一九三七年一〇

- 月、一〇七頁)。
- (57) 「先月九月より立教学院に教鞭を執らる」(中山少尉「立教中学校秋季団隊旅行に就いて」築地の園 第九九号、一九〇七年二月、一九頁)。
- (58) 東京商船学校教授の浅越は、立教大学と立教中学校を兼任した(前掲『立教学院学報』第三号、『立教学院学報』第四号、一九〇九年二月を参照)。浅越は一九〇一年一月より立教学校で数学を教授し、一八九六年からは立教尋常中学校勤務、翌年二月から東京商船学校教諭に任じられた。
- (59) 「第四号教員ノ氏名資格担任学科及専任兼任区別」(第一種 文書類纂(明治四十一年)・学事・第七類 私立学校・第二卷)(内務部学務課) 東京都公文書館所蔵)。
- (60) 立教中学校一〇〇年史編纂委員会編『立教中学校一〇〇年史』(立教中学校、一九九八年) 九八頁。
- (61) 前掲「第四号教員ノ氏名資格担任学科及専任兼任区別」。元田は一八九九年九月より中学校長。一九〇七年より大学校長兼任。本荘は一九〇一年六月より東京府立第三中学校教諭。岡倉は一九〇七年秋より立教大学着任。落合は一九〇七年九月より私立東京三一神学校教師。タツカーは一九〇三年より立教中学校で英語を担当。根岸は一八九九年四月より立教中学校。中山は一九〇六年七月より立教中学校教諭と生徒監。ウオークは一九〇六年四月まで立教中学校で英語を担当。ウエルボーンは一九〇六年一月より立教中学校で英語を担当。一九〇七年九月より立教大学講師。久保田は一九〇六年より立教尋常中学校。浅越は一九〇一年一月より立教学校で数学を担当、一八九六年より立教尋常中学校勤務。翌年九月より東京商船学校教諭に任じられる。佐々木は一九〇五年四月より立教中学校教諭。一九〇六年四月より早稲田高等予備校講師。木村は一九〇五年九月より慶應義塾大学歴史科および英語科教師。杉浦は一九〇三年三月より陸軍大学校教授。
- (62) 菅田吉編『立教学院設立沿革誌』(立教学院八十年史編纂委員、一九五四年) 六五頁。
- (63) 「校報 学院の現況 一、大学部」(『立教学院学報』第三号、一九〇八年二月) 一一頁。
- (64) 同右。当時の文科生は、商科生を「マーチャントと呼び、自らはマスター・オブ・アーツなりと威張る」が、一方の商科生は「アーツのAはアグリカルチャーのAだから君等はファーマーならずやと得意が」ったという。
- (65) 「教職員宿所 二、大学部教職員」(『立教学院学報』第三号、二四頁)。
- (66) 「校報 学院の現況」(『立教学院学報』第四号、一九〇九年二月) 一五頁。
- (67) 同右、一五―一六頁。
- (68) 同右、二〇頁。
- (69) 同右、一六頁。
- (70) 「学院総理より」(『立教大学出身』(『立教学院学報』第七号、一九二二年) 五頁、三三頁)。
- (71) 前掲「園の昨今」(『築地の園』第九七号) 一八頁。
- (72) 前掲『立教学院学報』第七号、三三頁。
- (73) 前掲「私立立教学院立教大学学則」(第一種 文書類纂(明治四十年)・学事・第七類 私立学校・第三卷)。

- (74) 『基督教週報』第二九卷第一七号、一九一四年六月二六日。『私立立教学院立教大学 ST. PAUL'S COLLEGE 1915-1916』(立教学院史資料センター所蔵)。
- なお、一九一二年三月二日付の『説売新聞』に掲載された「私立立教大学学生募集」の広告には、「文科(英文科 哲学科)」と記されている。久保田富次郎「立教大学小史未定稿」(立教池袋中学校・高等学校史料室所蔵)には、「本科二文科、商科ヲ置き、更二文科ヲ分ケテ哲学科及ビ英文科トス」と叙述されているが、開校当初から分科された可能性は低いように思われる。
- (75) 「学院現状 大学より申上候」『立教学院学報』第八号、一九一五年)三二頁。
- (76) 前掲『基督教週報』第二九卷第一七号、一九一四年六月二六日。
- (77) 立教学院史資料センター編『立教大学の歴史』(再版、立教大学、二〇〇八年)七五〜八〇頁。
- (78) 「設立の趣意」(前掲『立教学院立教大学要覧』三〜四頁)。
- (79) 「学則 学科目及課程」(前掲『立教学院立教大学要覧』一八〜四八頁)。
- (80) 同右。
- (81) 同右。
- (82) 同右。
- (83) 同右。
- (84) 高垣松雄「築地から池袋へ」(『英語青年』第七六卷第九号、一九三七年二月)八頁。
- (85) 前掲「学則 学科目及課程」(『立教学院立教大学要覧』一八〜四八頁)。
- (86) 前掲「築地から池袋へ」八頁。
- (87) 前掲「学則 学科目及課程」(『立教学院立教大学要覧』一八〜四八頁)。
- (88) 金子尚一「よい古い時代」(『英米文学研究室』第二号、一九六七年五月)、一頁。
- (89) 前掲『立教学院設立沿革誌』六五頁。
- (90) 『基督教週報』第四一巻第一五号、一九二〇年六月一日、六頁、前掲『立教大学の歴史』八二頁。
- (91) 小島茂雄「ヨリ大なる立教大学」(『立教』第八号、一九一九年七月二五日)二頁。
- (92) 「学則 学科及修業年限 総則」(『立教大学要覧 大正八〜九年』一九一九年五月、立教池袋中学校・高等学校史料室所蔵)。
- 一九一九年二月の『基督教週報』でも「哲学、史学、英文学の選択専攻の自由あり」との広告記事が掲載されている(『基督教週報』第三八巻第二五号、一九一九年二月)。
- (93) 「学則 学科及修業年限」(『立教大学要覧 大正八〜九年』一九一九年五月)。
- (94) 原文では「欧州」は「歌洲」とあり。
- (95) 前掲「学則 学科及修業年限」(『立教大学要覧 大正八〜九年』一九一九年五月)。
- (96) 同右。なお、学科目の記述部分では「国史」ではなく「日本史」とある。
- (97) 同右。その後、大学令による大学の設置申請時には「随意科」は選択科目へ変化した。
- (98) 『立教大学要覧 大正八〜九年』七〇〜七五頁。なお、『立教

- 学院学报」(第七号、一九一二年、五頁)には、「当時の文科在籍者数は三四名で」文科生の多数は神学生候補者なりと云ふ」という記述がみられる。
- (99) 前掲「ヨリ大なる立教大学」二頁。
- (100) 松平惟太郎「聖公会神学院史」(『神学の声』第三卷第一号、一九五六年六月) 一二頁。大江滿「立教大学と聖公会神学院の二重学籍制度」(江島尚俊・三浦周・松野智章編『シリーズ大学と宗教』II 戦時日本の大学と宗教) 法蔵館、二〇一七年) 二一〇～二二一頁。
- (101) 「学則 学科及修業年限」(前掲『立教学院立教大学要覧』一八頁)。
- (102) 前掲『立教学院設立沿革誌』六五頁。
- (103) 礪川生「校報 学院の現況」(『立教学院学报』第四号、一九〇九年二月) 一六頁。
- (104) S/M, November 1907, pp.907-908. (前掲『THE SPIRIT OF MISSIONS』立教関係記事集成(抄訳付)第三卷、一九三頁)。
- (105) 前掲「園の昨今」(『築地の園』第九七号) 一八頁。
- (106) S/M 校報 学院の現況 一、大学部」(『立教学院学报』第三号、一九〇八年二月) 一一頁。
- (107) 河上前委員長記念出版委員会編『河上丈太郎 十字架委員長の人と生涯』(日本社会党機関紙局、一九六六年) 三〇～三六、四五～四八頁。
- (108) 前掲『立教学院立教大学要覧』二四～四八頁。
- (109) 『大正元年 東京府統計書』第四卷(東京府、一九一四年) 一九六～一九七頁、『大正六年 東京府統計書』(東京府、一九一九年) 三〇〇～三〇一頁、『大正八年 東京府統計書』(東京府、一九二二年) 六九〇～六九一頁。
- (110) 『日本帝国文部省年報』各年度版。在籍者数推移については本書巻末の表2を参照されたい。
- (111) 大江滿「立教学院初代総理アーサー・ロイド——教育と伝道と異端嫌疑」(『立教学院史研究』第四号、二〇〇六年三月) 六四～六五頁。
- (112) 立教学院史資料センター編『THE SPIRIT OF MISSIONS』立教関係記事集成(抄訳付) (第四卷、立教学院、二〇一三年) (55)頁。
- (113) 天野郁夫「大学令と大正昭和期の医師養成」(『日本医史学雑誌』第五七卷第二号、二〇一一年六月) 一一三頁。唐沢信安「財団法人日本医学専門学校の学校騒動と私立東京医学専門学校の独立分離(上)」(『日本医史学雑誌』第四二卷第三号、一九九六年九月) 三八～三九頁。
- (114) 厚生省医務局編『医制八十年史』(印刷局朝陽会、一九五五年) 一三五～一四一、一四八～一四九、一五八～一五九頁。
- (115) 坂井建雄ほか「我が国の医学教育・医師資格付与制度の歴史的变化遷と医学校の発展過程」(『医学教育』第四一巻第五号、二〇一〇年一〇月)。
- (116) 『日本医科大学八〇周年記念誌』(日本医科大学、一九八三年) 三四～三五頁。
- (117) 「日本医専学生蘇らん」(『医事公論』第一六八号、一九一六年九月) 一一頁。
- (118) 『東京医科大学五十年史』(東京医科大学、一九七一年) 二二頁。
- (119) 立教大学と日本医学専門学校、東京医学講習所との合併問題に

- ついで、関東大震災による資料散逸のため、『立教学院八十五年史』および『立教学院百年史』ではまったく言及されていない。
- (120) 「日本医専の善後策」(『医事公論 第一六五号、一九二六年八月) 八頁。唐沢信安「財団法人日本医学専門学校の学校騒動と私立東京医学専門学校の独立分離(下)」(『日本医史学雑誌』第四二卷第四号、一九九六年二月) 五五二頁。
- (121) 前掲「日本医専学生蘇らん」一頁。
- (122) 前掲『東京医科大学五十年史』六六頁。関直彦は、立教学校で数学・哲学を専攻した河島敬蔵と和歌山縣学(現在の和歌山大学教育学部の前身の1つ)で共に英語を学んだ。河島に英文学を学んだ元田は、河島を通じて関に仲介を依頼したと思われる。なお、関直彦は、同姓同名の可能性もあるが、一九二一年四月調の校友会名簿に氏名が掲載されている(『立教学院校友会名簿(立教学院学報第六号)一九二一年 三四頁)。
- (123) 「日本医専解決」(『読売新聞』一九二六年八月一八日) 二面。
- (124) 前掲『東京医科大学五十年史』三三頁。
- (125) 医学部設置をめぐる立教大学、アメリカ聖公会、聖路加国際病院長トイスラーの動向については、前掲『THE SPIRIT OF MISSIONS 立教関係記事集成(抄訳付)』第四卷(55)〜(58)頁を参照。
- (126) The Board of Trustees of St. Paul's College, 28 November 1916, JR, Box 48, AEC.
- (127) John W. Wood to J. McKim, 17 January 1917, JR, Box 48, AEC.
- (128) J. McKim to C. S. Reifsnider, 8 August 1917, JR, Box 48, AEC.
- (129) C. S. Reifsnider to Rudolph B. Teusler, 9 January 1917, JR, Box 48, AEC.
- (130) John W. Wood to J. McKim, 17 January 1917.
- (131) 「高橋琢也日記」一九一七年七月一七日(東京医科大学歴史史料室所蔵) 一〇〇頁。
- (132) 「高橋琢也日記」一九一六年七月三二日、一〇二頁。
- (133) 立教大学と東京医学講習所の学生団および高橋琢也との間で交わされた合併協議については、前掲『東京医科大学五十年史』六六〜七二頁、友田輝夫「高橋琢也と学生達(疾風怒濤の物語)」(四)(中)、『東京医科大学雑誌』第六十九卷第二号(二〇一一年四月)を参照。
- (134) R. B. Teusler to J. W. Wood, 4 June 1917, JR, Box 48, AEC.
- (135) 聖路加国際病院八十年史編纂委員会編『聖路加国際病院八十年史』(聖路加国際病院、一九八二年) 三三〇頁。
- (136) J. McKim to C. S. Reifsnider, 8 August 1917.
- (137) 「合同基督教大学設立計画之次第概要」(青山学院史資料センター所蔵。『青山学院一五〇年史 資料編1』学校法人青山学院、二〇一九年) 二七一頁。
- (138) J. McKim to R. B. Teusler, 23 August 1917, JR, Box 48, AEC.
- (139) J. W. Wood to J. McKim, 5 October 1917, JR, Box 48, AEC.
- (140) J. W. W. to J. McKim, 30 November 1917, JR, Box 48, AEC.
- (141) 「立教大学の医科大学設置計画」(『中央新聞』一九一七年一月九日) 二一三二面。
- (142) The telegram from J. McKim, 6 December 1917, JR, Box 48, AEC; J. W. Wood to McKim, 10 December 1917, JR, Box 48, AEC.
- (143) 「第二十三回本部会議」一九一八年一月四日(『本部会記録』私

- 製版、東京医科大学歴史史料室所蔵、二〇二一年）九二～九三頁。
- (144) 「秘密会議」一九一七年一〇月三〇日（前掲『本部会記録』七五頁）。
- (145) 「第三十四回本部会議」一九一八年二月一日（前掲『本部会記録』一一〇頁）。
- (146) 「近く開設される 医学部及び法政学部 杉浦学長の意見」〔立教大学新聞』第六号、一九二四年一月五日）二面。
- (147) 「機漸く熟して 医学部設立せん ト院長と学長の意纏り 近く公式に発表の段階」〔立教大学新聞』第六〇号、一九二八年一月五日）三면。
- (148) 「学院多年の懸案 医学部創設に確定 総理の帰朝後直ちに起工 第一期生募集は来春か」〔立教大学新聞』第六四号、一九二八年五月十五日）二面。
- (149) 同右。
- (150) 「立教将来の医学部 聖路加病院の改築近し」〔立教大学新聞』第三九号、一九二六年七月二五日）一面。
- (151) 「付属病院には聖路加をあてるか 建築費一千万円で思ひ出の築地の園に」〔前掲『立教大学新聞』第六四号）二面。
- (152) 「うれしげに 学長抱負を語る 医学部も新設間近い 類のない立教を発展せんと」〔立教大学新聞』第七二号、一九二八年二月五日）三면。
- (153) 「医学部新設は 論るに及ばず 祝賀会でラ総理 盛に嬉しがらす」〔立教大学新聞』第七四号、一九二九年二月一日）三면。
- (154) *The Spirit of Missions*, February 1905, p. 77, May 1905, pp. 343-345.
- (155) *SM*, December 1911, p. 1024.
- (156) *SM*, January 1909, p. 5.
- (157) 『立教学院学报』（第一号、一九〇七年二月）二〇頁。
- (158) *SM*, June 1904, p. 391.
- (159) *SM*, November 1904, p. 806.
- (160) *SM*, November 1905, p. 863.
- (161) *SM*, September 1906, p. 748.
- (162) *SM*, September 1906, p. 750.
- (163) 前掲「私立立教学院立教大学設立認可願」。『立教学院百二十五年史』資料編第一卷、立教学院、一九九六年、八六～八九頁。一九〇七年八月二八日に認可された「私立立教学院立教大学設立認可ノ件」〔前掲「第一種 文書類纂（明治四十年）・学事・第七類・私立学校、第三卷」〕。なお文部省告示は一九〇七年八月二九日である（一九〇七年八月二九日文部省告示第二二七号、『官報』第七二五一号、一九〇七年八月二九日）。
- (164) *SM*, November 1907, p. 907.
- (165) *Ibid.*
- (166) *SM*, January 1908, p. 40.
- (167) *SM*, November 1907, pp. 907-908.
- (168) *SM*, March 1909, p. 228.
- (169) *SM*, August 1909, p. 681.
- (170) *SM*, June 1910, p. 442.
- (171) *SM*, March 1911, p. 254.
- (172) *SM*, September 1911, p. 771.
- (173) *SM*, August 1912, p. 591.
- (174) *SM*, July 1914, p. 491.

- (175) *SM*, November 1905, pp. 865-867.
- (176) *SM*, August 1908, pp. 618-619.
- (177) *SM*, June 1909, p. 479.
- (178) *SM*, August 1909, p. 681.
- (179) *SM*, March 1909, p. 226.
- (180) *SM*, June 1910, pp. 441-442.
- (181) *SM*, January 1916, pp. 61-62.
- (182) *SM*, May 1905, p. 394; June 1905, p. 469.
- (183) *SM*, March 1906, p. 231.
- (184) *SM*, August 1908, p. 621.
- (185) *SM*, August 1907, p. 683.
- (186) 『立教学院年報』(第三号)一九〇八年十二月)一一頁。
- (187) *SM*, August 1908, pp. 619-621.
- (188) *SM*, November 1908, pp. 885-886.
- (189) *SM*, March 1909, p. 229.
- (190) *SM*, September 1909, pp. 783.
- (191) *SM*, March 1910, p. 217.
- (192) *SM*, June 1910, p. 443.
- (193) *SM*, July 1910, p. 602.
- (194) *SM*, January 1911, p. 62.
- (195) *SM*, March 1911, p. 248.
- (196) *SM*, November 1912, p. 836.
- (197) *SM*, August 1916, pp. 533-535.
- (198) *SM*, November 1911, p. 897.
- (199) *SM*, June 1912, p. 439.
- (200) *SM*, April 1912, p. 285.
- (201) *SM*, November 1909, pp. 940-941.
- (202) *SM*, August 1908, p. 621.
- (203) *SM*, November 1905, pp. 867-869.
- (204) *SM*, September 1909, p. 803.
- (205) *SM*, August 1908, p. 621.
- (206) *SM*, November 1905, pp. 868-869.
- (207) *Ibid.*
- (208) *SM*, January 1909, p. 5.
- (209) *SM*, March 1909, pp. 225-229.
- (210) *SM*, September 1909, p. 803.
- (211) *SM*, June 1901, pp. 357-358.
- (212) 『同志堂百年史—基督教學生寮百有余年の歩み—』(財団法人同志堂)二〇〇九年)六七頁。
- (213) *SM*, May 1903, p. 301.
- (214) *SM*, October 1902, p. 708.
- (215) *SM*, September 1905, p. 699.
- (216) *SM*, November 1905, pp. 835-836; *SM*, January 1906, pp. 15-18.
- (217) *SM*, February 1906, pp. 115-117; *SM*, February 1908, p. 127.
- (218) *SM*, November 1906, pp. 941-942.
- (219) 「私立志成学校設立認可願」「私立学校設立ノ件」(「第一種文書類纂〔明治四十年〕学事・第七類・私立学校・第一卷」(第二部学務課)東京都公文書館所蔵。『立教学院百二十五年史』資料編第一卷)一四四—一四七頁所収)。
- (220) 「学校設置認可」(『警視庁東京府公報』第一一二号)一九〇七

- 年四月二日、東京都公文書館所蔵。『立教学院百二十五年史』資料編第一巻、一四七頁所収。
- (221) *SM*, July 1906, pp. 541-542.
- (222) *SM*, August 1908, p. 619.
- (223) *SM*, August 1909, p. 681.
- (224) *SM*, June 1910, pp. 441-442.
- (225) *SM*, May 1911, p. 419.
- (226) *SM*, July 1913, p. 480.
- (227) *SM*, September 1909, p. 783.
- (228) 松平惟太郎「聖公会神学院史」(『神学の声』第三巻第一号、聖公会神学院、一九五六年)八頁。
- (229) 『財団聖公会教育財団寄附行為並理事変更沿革誌』一一〜一五頁。
- (230) 同右一六〜二〇頁。
- (231) 同右二一〜二三頁。
- (232) John Wilson Wood to John McKim, 13 October 1921, Japan Records, Box 111, Archives of the Episcopal Church.
- (233) 「基本財産分割供託認可申請書」一九二二年二月二八日。東京都公文書館所蔵。前掲『立教大学百二十五年史』資料編第一巻、二七七〜二七八頁。
- (234) 一九二二年五月二七日文部省告示第四三四号、『官報』第二九四四号、一九二二年五月二七日。前掲『立教大学百二十五年史』資料編第一巻、二八〇頁。Charles Shaver Reinhardt to John Wilson Wood, 26 July 1922, JR, Box 122, AEC. の書簡でライフスナイダーは一九二二年五月一日に認可されたと報告しているが、これは彼の誤認である。
- (235) 老川慶喜「池袋は鉄道から始まった―池袋の鉄道史と未来―」(『池袋学』講演録・東京芸術劇場×立教大学連携講座二〇一六年度「池袋学」事務局、二〇一七年)七八〜八一頁。
- (236) 以下の池袋をめぐる鉄道の記述は、特に注記のない限り、豊島区編纂委員会編『豊島区史』(通史編二、東京都豊島区、一九八三年)第二章第一節に拠る。
- (237) 前掲『豊島区史』通史編二、二八四〜二八八頁。
- (238) 同右、四一八〜四一九頁。
- (239) 同右、四二七頁および四二八〜四二九頁所載の表69。なお、この一〇年間の変化で増大をみた公務員自由業は、軍人、官公吏、教育関係、医務関係および記者・著述者、芸術家などで構成され、その内、豊島地域では官公吏、教育関係、医務関係の規模が比較的大きい(同書、四三二頁)。
- (240) 貫民之介「立教学院小史」(『立教学院百二十五年史』資料編第一巻、五〇頁所収)。ただし、立教専修学校の名称は一九〇七年二月まで存続した(第一編第三章第五節参照)。
- (241) "What the Church in Japan Most Needs", *SM*, March 1909, p.226.
- (242) 『池袋登記簿権利書』(立教学院史料センター所蔵)。豊田雅幸『立教の学び舎―キャンパスと後者の移り変わり―』(立教ブックレット7、立教学院、二〇一三年)二八〜二九頁。『池袋登記簿権利書』に含まれる資料は、複写物である「土地売渡承諾書」と土地登記書類の現物の「土地売渡証書」である(いずれも、一九〇一年一月中旬から後半にかけて作成)。土地の購入交渉にあたった押川は、日本のキリスト教界の指導者には珍しく、鉱山採掘、米穀や塩の取引などさまざまな営利事業に携わっていた。そ

- れは、外国の教会の会の援助に頼ることなく、日本人が経済的に自立した伝道活動を行なえるよう資金を確保することが目的であった（大塚栄三『聖雄押川方義』押川先生文書刊行会、一九三二年、六一〜六八、八七頁）。アメリカ聖公会のミッション・スクールである立教大学の事業に、アメリカ・ドイツ改革教会系ミッション・スクールのトップを務めた押川が協力したのは、用地買収が困難であったからだと推察される。地主たちも土地の値上りを予想し、立教への売却を渋るケースが続出見られたため、立教大学校長の元田作之進が押川に土地買収の仲介を依頼したのである（「一九〇七年二月二日川合信水宛押川方義書簡」基督教心宗教団編『押川方義川合信水両先生往復書簡集』基督教心宗教団事務局出版部、一九八一年、八一頁）。なお、立教大学付近の地価（字中原の（一））は、一九二二年に坪当たり二七円前後へと高騰していった（中所眞『北豊島郡西果鴨町土地概評』大正十年五月調『東京興信所』一九二二年、二五頁）。
- (243) 前掲『立教大学の歴史』七八〜七九頁。
- (244) “The Progress of the Kingdom”, *SM*, November, 1912, p.800.
- (245) C. S. Reifunder to J. W. Wood, 8 June, 1912, JR., Box 70, AEC.
- (246) “Opinion as to Suitability of a Japanese Style of Architecture for School and College Buildings in Japan”, n.d., JR., Box 68, AEC.
- (247) “The Progress of the Kingdom”, *SM*, November, 1912, p.800.
- (248) “Action of Executive Committee, 24 September, 1912, and Board of Missions, September 25, 1912”, JR., Box 68, AEC.
- (249) J. W. Wood to J. McKim, 11 October, 1912, JR., Box 68, AEC.
- (250) Memo from J. W. Wood to Mr. Clark [Lewis L. Clark], 11 October, 1912, JR., Box 68, AEC. なお、ニューヨークに本部を置くアメリカ聖公会伝道局は、重要事項を決定する機関として伝道局会議を置いていた。しかし、この会議は三か月に一度しか開催されないのど、日常的な事項は月一回開催される執行会議（Executive Committee）で処理された。さらに、この時期には資金の支払いなど伝道活動の重要問題を審議するため、伝道局理事会議長の諮問機関として勧告委員会が設置されていた。Julia C. Emery “A Century of Endeavor, 1821 - 1921: a record of the first hundred years of the Domestic and Foreign Missionary Society of the Protestant Episcopal Church in the United States of America”, Department of Missions, 1921, pp.289-290.
- (251) J. W. Wood to J. McKim, 14 February, 1913, JR., Box 68, AEC.
- (252) J. M. Gardiner to J. McKim, 13 March, 1913, JR., Box 68, AEC.
- (253) J. McKim to J. W. Wood, 20 March, 1913, JR., Box 68, AEC.
- (254) J. W. Wood to J. McKim, 16 April, 1913, JR., Box 68, AEC.
- (255) J. McKim to J. W. Wood, 2 May 1913, JR., Box 68, AEC.
- (256) ビレのブーンイキヤダタナゴゴソの記録は、Jeffrey W. Cody, *Building in China: Henry K. Murphy's Adaptive Architecture*, 1914-1935, Hong Kong: The Chinese University Press, Sattle University of Washington Press, 2001, pp.17-28. 28. 纏のりる。
- (257) *Building in China*, p.65.
- (258) J. W. Wood to H. K. Murphy & R. H. Dana Jr., 1 July, 1913, JR., Box 69, AEC.
- (259) R. H. Dana Jr. to J. W. Wood, 10 July, 1913; R. H. Dana Jr. to J. W. Wood, 24 July, 1913, JR., Box 69, AEC.

- (260) "St. Paul's College Conference of September 16th", JR., Box 69, AEC.
- (261) "St. Paul's College Report of Conference of October 17th, 1913", JR., Box 69, AEC.
- (262) *Ibid.*
- (263) "Proposal of Henry Killiam Murphy, Architect to visit to Japan", JR., Box 69, AEC.
- (264) T. Seagwick to A. S. Lloyd, 18 December, 1913, JR., Box 69, AEC.
- (265) 「建築家ヘンリー・キラム・ムーフィー氏の日本渡航案 (Proposal of Henry Killiam Murphy, Architect to visit Japan.)」(一九一三年一月二三日) JR., Box 69, AEC.
- (266) "Report of H.K.M.'S visit to Tokyo, Japan Re St. Paul's College - May 1914", Murphy Papers, MS 231, Box 4, Folder 29, Sterling Memorial Library, Yale University, New Heaven.
- (267) "Report of H.K.M.'S visit to Tokyo, Japan Re St. Paul's College - May 1914".
- (268) "Murphy Memo", Murphy Papers, MS231, Box 4, Folder 29. 立教大学建物実測調査会編『立教大学煉瓦造建物実測調査報告書』(一九九〇年) 一一三頁。
- (269) 日本煉瓦製造株式会社社史編集委員会編『日本煉瓦一〇〇年史』(日本煉瓦製造、一九九〇年) 二二八頁。金町製瓦はキャンパス建設途中の一九一八年には、日本煉瓦製造に合併されたり(水野信太郎『日本煉瓦史の研究』(法政大学出版局 一九九九年) 一四一頁)、関東大震災後に大規模な補修工事も実施されているので、現在残っている建物には、これ以外の会社の刻印がある煉瓦も多数使用されている。なお、金町製瓦の煉瓦の価格は「焼過一等」で一万個あたり一五〇円であったが(河津七郎、吉田全三『建築工事仕様見積』(大日本工業学会、一九二五年)、これは他社の同水準の製品と比較して割高であり(日本煉瓦製造一四五円〔焼過一等〕、小菅監獄二二五円〔上焼過〕)、価格よりも品質を重視した選択であったことがわかる。
- (270) "Report of H. K. M.'S visit to Tokyo, Japan Re St. Paul's College - May 1914".
- (271) *Ibid.*
- (272) *Ibid.*
- (273) *Ibid.*
- (274) *Ibid.*
- (275) *Ibid.*
- (276) 山口晋一編『諸官省用達商人名鑑 前編』(運輸日報社、一九一〇年) 六〇頁。
- (277) 堀勇良「日本における鉄筋コンクリート建築成立過程の構造技術史的研究」(東京大学博士学位請求論文、一九八二年三月二八日) 七九〜八四頁。
- (278) H. K. Murphy to A. S. Lloyd, 15 December, 1914, JR., Box 69, AEC.
- (279) "Report of H.K.M.'S Telephone Conversation with Mr. Wood", 24 September, 1914, JR., Box 69, AEC.
- (280) 「立教大学の移転拡張計画」(『基督教週報』第二九卷第一七号、一九一四年六月二六日) 一〇〜一一頁。
- (281) "Abstract for the Council of Advice", 27 November, 1914, JR., Box 68, AEC.
- (282) J. W. Wood to J. McKim, 28 December, 1914, JR., Box 68, AEC.

- (283) Cablegram, McKim to New York, 1 February, 1915, JR., Box 68, AEC.
- (284) "Memorandum for Mr. Clark", JR., Box 68, AEC.
- (285) J. W. Wood to J. McKim, 26 March, 1915, JR., Box 68, AEC.
- (286) Murphy & Dana to J. W. Wood, 25 May, 1915, JR., Box 68, AEC.
- (287) J. McKim to J. W. Wood, 30 June, 1915, JR., Box 68, AEC.
- (288) James R. Morse to C. S. Reifsnider, 9 December, 1915, JR., Box 69, AEC.
- (289) 「個人 ライフスナイタ氏」〔『基督教週報』第三十三卷第五号』一九一五年一〇月一日〕一五頁。
- (290) Murphy & Dana to St. Paul's College, 17 January, 1916, JR., Box 68, AEC. なお、建築に関する契約書の複製物は、以下の文書を確認せよ。⁹ J. W. Wood to Mr. Clark [Lewis L. Clark], 20 February, 1917, JR., Box 68, AEC.
- (291) 良山〔元田作之進〕「立教大学の第二期拡張計画」〔『基督教週報』第三十三卷二三号』一九一六年一月〕一頁。
- (292) 「天洋丸の外人客」〔『東京朝日新聞』一九一六年三月二十五日朝刊〕四面。
- (293) "St. Paul's College and Its President", *Boston Evening Transcript*, 19 February, 1916, Murphy Papers, MS231, Box 4, Folder 55.
- (294) 前掲「天洋丸の外人客」。
- (295) 良山〔元田作之進〕「立教大学愈々新築に着手す」〔『基督教週報』第三十三卷一五号』一九一六年六月〕一頁。
- (296) J. W. Wood to J. McKim, 2 June, 1916, JR., Box 68, AEC.
- (297) J. W. Wood to J. McKim, 2 October, 1916, JR., Box 68, AEC.
- (298) H. K. Murphy to Everett Frazar, 10 October, 1916, Murphy Papers, MS231, Box 44, Folder 29.
- (299) "Memo for the Council of Advice and Executive Committee", JR., Box 68, AEC.
- (300) J. W. Wood to J. McKim, 27 November, 1916, JR., Box 68, AEC.
- (301) W. Wilson, "Summary of the Information Collected by the Supervising Architect Relative to the Steel Sash and the Contractor's Four Drawings Mentioned in the General Contract", 9 January, 1917, JR., Box 71, AEC.
- (302) *Ibid.*
- (303) W. Wilson to St. Paul's College, "Report of Supervising Architect on St. Paul's College", 9 August, 1917, JR., Box 71, AEC.
- (304) A. W. Cooke to J. W. Wood, 15 November, 1916, JR., Box 163, AEC.
- (305) J. McKim to J. W. Wood, 8 February 1917, JR., Box 68, AEC.
- (306) American Trading Company (E. M. Sutcliffe) to J. W. Wood, 20 February, 1917, JR., Box 68, AEC.
- (307) W. Wilson to St. Paul's College, "Report of Supervising Architect on St. Paul's College", 9 August, 1917, JR., Box 71, AEC.
- (308) J. W. Wood to McKim, 27 December, 1917, JR., Box 68, AEC.
- (309) "Recommend alternations to St. Paul's College Buildings having in mind as main object to keep within if possible, our limited appropriation", 9 February 1917, JR., Box 68, AEC.
- (310) "Proposed Scheme of Combining the Dining Hall and Gymnasium Buildings", 20 February 1917, JR., Box 68, AEC.
- (311) "Withdrawal of president's house from contract, and request for \$300.

- to repair the president's residence", 20 February, 1918, JR., Box 68, AEC.
- (312) 「聖公会教報 立教学院立教大学」〔基督教週報〕第三八卷第三卷、一九一八年九月、三頁。
- (313) 山中一弘「立教史散歩 特別編「マザーライブラリー」顛末」〔立教学院史研究〕第二三号、二〇一六年、七八〜八四頁。
- (314) J. W. Wood to J. McKim, 3 February, 1919, JR., Box 68, AEC.
- (315) 『私立立教学院立教大学新築校舍落成式』Murphy Papers, MS231 Box 4 Folder 30.
- (316) 「立教大学の体育館 本日落成」〔読売新聞〕一九一九年九月一日朝刊、五面。
- (317) J. McKim to J. W. Wood, 27 February 1917, JR., Box 68, AEC.
- (318) 鈴木勇一郎「立教大学池袋キャンパスの建設とハンリー・K・マーフィー」〔立教学院史研究〕第九号、二〇一二年、六七頁。本項で扱ったキャンパス計画の詳細については、同論文を参照。
- (319) 鈴木一教授の同日の日記には、「午前九時過ぎ始業式。明日より授業開始」と記されている。鈴木一先生記念出版委員『鈴木一先生日記乃書翰』一九三一年、一七三〜一七四頁。
- (320) 「立教大学の落成式」『東京朝日新聞』一九一九年六月一日、五頁。J. A. Wabourn, "The Opening of Saint Paul's College", *The Spirit of Missions*, September 1919, pp. 577-582. 前掲「立教大学の歴史」八〇頁。
- (321) 「立教大学新築落成式上の二演説」〔基督教週報〕第三九卷第一五号、一九一九年六月二三日、七〜八頁。
- (322) この時「諸聖徒礼拝堂」と命名された。立教学院八十五年史編纂委員編『立教学院八十五年史』立教学院、一九六〇年、九〇頁。
- (323) 初期の建築群について、日本建築学会編『日本近代建築総覧——各地に遺る明治大正昭和の建物』(技報堂出版、一九八三年)に、一七棟が収録されている。
- (324) 宍戸まこと「立教大学の煉瓦校舎(2)」〔立教〕第一〇九号、一九八四年、三二頁。
- (325) 永井均・豊田雅幸「立教のチャペルと関東大震災——発見された十字架の背景を探る」〔立教〕第一七九号、二〇〇一年、八四〜九八頁。
- (326) キャンパスに設けられた中庭は、中世修道院の瞑想の中庭(Monastic Quadrangle)を源泉とし、一九〜二〇世紀初頭のアメリカの伝統ある名門校がキャンパス内に知的雰囲気をもたらすために採用したと言われている。Paul Venable Turner, *Campus: An American Planning Tradition*, New York: Architectural History Foundation: MIT Press, 1984, pp. 215-247.
- (327) Megan Brewster Aldrich, *Gothic Revival*, Phaidon Press, 1994, pp. 41, 223-224.
- (328) 宍戸まこと「立教大学の煉瓦校舎(3)」——その存在と今後を考える」〔立教〕第一一〇号、一九八四年、七八頁。
- (329) チャペルの当初の建築については、以下を参照。加藤磨珠枝「立教大学諸聖徒礼拝堂をめぐる考察——ジェームズ・マクドナルド・ガーディナーの影響について」〔キリスト教学〕第五二号、二〇一〇年、一〇七〜一二三頁。
- (330) 白井彦衛「6 樹木の保存について」(立教大学近代建築調査委員会『立教大学近代建築調査報告書』一九八五年)三〇頁。